

藤沢

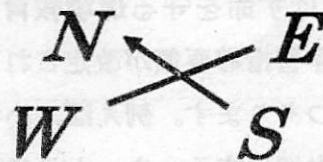
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2012年1月1日

第212号



- 主 事
- ・ TPP が日本の医療に何をもたらすか?
 - ・ 2012 新年に向けて
 - ・ あついで! ふじさわ ECO²祭り 2011 開催
 - ・ タケダ 遺伝子組み換え生物等不適切使用に抗議文

http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/

事務局 〒252-0816 藤沢市遠藤 849-9 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp

TPPが日本の医療に何をもたらすか?

TPP に参加する動きは、経済界から強くだされ、それに呼応している野田政権は言葉を巧みに操りながら国民をたぶらかし、参加準備を着々と進めている。

その一分野である TPP 型医療はアメリカ経済を規範にした民間型医療とその関連産業の発展の姿である。日本の公的医療を縮小し、自費診療を拡大、混合診療をみとめ、株式会社参入を解禁などであり、最後には公的医療制度を解体し、民間型医療保険制度を主軸とし、低所得者は公費医療で扱うが財源は消費税で賄うビジョンである。

すでに十数年ほど前から日本の生命保険会社、大企業などが合同の組織を作り、アメリカ型 TPP 医療を目指して、日本政府に圧力をかけている。TPP には、いったん金融施策を決めると後退と抜け出しが出来ない仕組みが作られていて、大金融資本のわが世となる。

現在までに保険診療制度は縮小（保険外し）と頭打ち政策（まるめ）を続けてきた。入院ベッド、食費は別途徴収、差額ベッド導入、入院診療の日数制限と患者追い出し、リハビリ日数制限などのように、入院医療制度は保険外しによって患者負担の大幅増加、病院経営には診療内容制限、診療報酬頭打ちをしてきたため病院崩壊現象が社会化した。すでに実質入院負担割合は40%を超えている。大病院ではアメリカ型の病名ごとの包括払い DRG（薬、検査などの包括）が普通になり、診療報酬の頭打ちがほぼ完成し、政府のさじ加減で医療費はどうにでもなるように変貌している。外来診療は血液検査項目まるめ、多剤投与制限、同月2回目のCT検査などの割引、診療所では薬価差の実質消失、消費税が上があればマイナスとなる。コンピューター世界を医療界に導入して、政府の思いのままに保険診療を操る計画は現実になろうとし、診療情報は生命保険会社に流れるようにしている。近年は診療報酬改定のたびに漢方薬、シップ、風邪薬など町の薬局店で買える薬などは全て保険外しにして、さらには、車の保険と同じ仕組みの免責制にして、生命保険会社に入らないと安心して病院にかかれない環境づくりの圧力が強まっている。これらの動きは TPP 型医療の先取りである。低所得者は保険料を払っても高額な検査と薬の窓口負担が心配で受診控えがある。会社の保険料負担を免れる派遣労、さらには医療を全額消費税で賄う国民負担の大幅増加の圧力を黙ったままにしておけない。

「患者の窓口負担ゼロ」、政府と大会社の保険料負担を大幅にアップし、医療費の国民負担を30%におさえる安心医療の実現を対置し、日本経済の巨額の内部留保に税金をかけて、社会に放出させる施策が日本の救済になると確信する。



(医師 野本哲夫)

2012 新年に向けて！！

震災に負けず命を守る環境教育を！

小中高校の学習指導要領が改定されて、環境教育が行われつつあります。例えば、小学校理科では自然環境を大切に作る心や、より良い環境を作ろうとする態度を育てる。また中学校では社会科（地理的分野）で我が国の環境・自然エネルギーに関する課題などです。

私は定年により教職を退いてから25年になります。従って学校現場で児童・生徒がどのような学習方法によって環境への関心を高めているかは具体的にはよくわかりません。

3・11東日本大震災が起きました。多くの人命・財産が失われ、未だ多くの人々の生活は再建・復興されていません。特に原発事故による福島県民の人たちの苦労は見えないものがあります。

電力会社や御用学者が作ったパンフレットを副読本に使って「原子力発電は安心・安全」だという神話を生徒たちに植えつけた文部科学省は責任がないのか。大変腹立たしい次第です。

これからの環境教育は、すべて真実を教えるべきだと考えます。・原発の危険性・地震帯・津波の規模などの正確な知識が自分や家族の命を守ることに必要だと考えます。

（上野武雄）

子どもたちに未来への希望！

311以降、脱原発に向けた市民活動が活発化しています。未来への希望を感じるのは「子ども達」と「ネット」です。

今、東京で2月9日まで「原発都民投票」を実現させるための署名活動が行われています。

これは、原発の是非を決めるのは政治家や電力会社に任せるのではなく、市民みんなで考えて決めて行こうとする活動です。

〈藤沢エコネットニュース212号〉

私は街頭で署名のお手伝いしていますが、10代の子ども達の反応が良いのです。「大人は勝手に原発をつくって電気を浪費しておいて、放射能のツケは僕達は何故払う」「あの事故の後に、大人たちは自分たちを全力で守ってくれたか？ どのような行動をとったか？」 原発を自分たちの問題としてとらえる子ども達に未来への希望を感じます。

大人たちは、今試されていると思います。

他には、ツイッター等インターネットによる情報革命にも未来への希望を感じます。

ただ、新聞・テレビからの情報だけに頼っている人とネットにアクセスできる人では情報格差が圧倒的に広がっているのが現実のようです。

（宮本珠江）



放射能測定器の活用を

12月になって藤沢市が放射線測定器を貸し出すことになりました。活用しましょう。また自主測定も行われており、高レベル場所は除染されますが公共施設のみです。

市内にもホットスポットが見つかりました。（自主測定）

γ線：Aloka TCS-172B, β線：富士電機 NHJ2 で測定

・（六会地区 A さん宅）雨樋の下（地表面 5cm）:

0.27μSv/h（この場所のβ線量：16000Bq/m²）

・（六会地区 B さん宅）: 0.59μSv/h（この場所のβ線量：27300Bq/m²）

・（鵜沼地区 C さん宅）: 0.42μSv/h（この場所のβ線量：28500Bq/m²）

・明治地区の雨樋の下（地表面 5cm）: HORIBA Radi（藤沢市の貸出器） 明治市民センター自転車置き場：0.08μSv/h（この場所のβ線量：66000Bq/m²）

★これらのホットスポットの共通点は、いずれも雨水管が地中に埋め込まれていない雨樋の下です。

あついで！ 藤沢 ECO² 祭り 2011

「ふじさわ環境フェア」が12月11日に湘南台文化センターにて開催されました。シアターでは環境クイズ王決定戦・環境大賞表彰のほか「らんま先生によるパフォーマンスショー」があり、不思議な実験やジャグリングに子どもたちも参加して楽しいひとときを過ごしました。

展示会場では各ブースに多彩な展示、クイズで賞品獲得もあり、参加団体の紹介もあり、縄文海進床パネルは神奈川の地形がわかり圧巻でした。

別会場では「石けんづくり」「おもちゃの病院」が、外では「ソーラークッカー実演」「レジ袋削減キャンペーン」「包丁とぎ」物産品販売もありました。

同時開催の学習会は「チェルノブイリからフクシマ・なくなる放射能」と題して渡辺美紀子さん(原子力資料情報室スタッフ)の講演がありました。市・放射能測定器運営協議会・消費生活センターの共催でした。



展示ブースの様子



藤沢エコネット展示と放射能測定器

〈低炭素都市ふじさわをめざして〉



らんま先生のパフォーマンス

「チェルノブイリからフクシマ

なくなる放射能」

放射能の拡散、飛散した放射能による環境汚染、食品の汚染、被ばくの避け方、脱原発運動の今後まで幅広い内容で、大変充実した中身で説得力のあるお話でした。

食品の汚染では、子どもたちにとって主食に近い粉ミルクや牛乳など毎日食べるものの汚染は深刻なこと、低線量被曝について汚染された食品を長い間食べ続けることの検証はされていないこと、これ以下なら安全という被ばく線量はない、被ばくを避けるためには、ホットスポットをさぐる、除染することが大切と話されました。

気象研が調査してきたデータ、内容を発表することにストップをかけ、放射能に関する予算も切ったと聞き政府の対応には驚きました。

会場からの質問は、今まで隠されてきたチェルノブイリからの正式なデータについて、学校給食の食品の安全について、行政の対応の悪さについて、また市民が測定し続けてきた情報を共有できない行政の対応について信用できないなどの意見などがありました。

資料で説明された、チェルノブイリ事故後6ヶ月後にオーストラリア政府報告書が放射能による被曝を示し、被曝の80%は汚染食品の摂取によると市民に説明していた、そして完成したばかりの原発を廃炉にしたと知りました。

貧しい国であるベラルーシでも、子どもたちの給食は汚染されていないものを届け使ったそうです。

本格稼働後1月足らずで漏洩事故起きる！

武田薬品工業(株)湘南研究所における遺伝子組み換え生物等の不適切な使用等に対する抗議文

武田問題・村岡新駅を考える藤沢市民の会

去る11月30日に発生した遺伝子組み換え生物を含む廃液(汚染水)の漏出事故に対して、武田問題・村岡新駅を考える藤沢市民の会として強く抗議するものです。

2011.12.15

1. 藤沢市議会に報告された武田薬品工業株の説明で明らかになったことは、研究施設が建設段階において杜撰である(防水性を要求される床面にひびが存在するなど)とともに、施設管理のあり方も杜撰そのものといえます。ヒューマンエラーと片づけるのではなく2度と事故が発生しないためには、施設管理マニュアルや危機管理マニュアルに問題がないのか充分検討することが必要です。

当会は、武田薬品工業株が法律で義務がないからと拒んでいる施設管理マニュアルや危機管理マニュアルを早急に藤沢市に提出しその問題点を第三者を含めて検討することを強く要求します。

2. 事故の存在を知らせる警報が発報したり、事故を確認したときに、研究所の所在地であり環境保全協定の締結当事者である藤沢市に報告が遅れたことは、全く許し難いことであります。

除染作業や不活化処理が終了してから報告するということは、環境保全協定にも法令にも記述はなく、法律に記述のあるのは「直ちにその事故についての応急の措置を執るとともに、速やかにその事故の状況及び執った処置の概要を届けなければならない」ということであり、決して除染作業や不活化処理が終了してから報告するというものではありません。

今回の事故で、廃液(汚染水)の貯留タンクからの漏出水がほぼ滅菌室内に留まり、室外においても廊下と別室の約2~3平方メートルの範囲で済んだことは幸運であったと言えますが、もし遺伝子組み換え生物を含む廃液が下水道に漏出したり、遺伝子組み換え生物を含む排気が排気筒から施設外に流出したりした場合、連絡の遅れは被害の拡大につながります。

今後、事故の存在を知らせる警報が発報したり、事故を確認したときには、速やかに行政と住民に報告することを強く要求します。

3. 藤沢市議会に報告された武田薬品工業株の説明から、遺伝子組み換え作業の不手際が明らかになりましたが、今回の事故を重大な事故として認識していない貴社の問題意識に対しては猛省を求めるものです。

これまで、武田薬品工業株は「事故は起きません。大丈夫です。」と言ってきましたが、「安全神話」は本格的稼働後わずか1ヶ月で崩れ去ったと言えます。

武田薬品工業株と行政および住民の積極的リスクコミュニケーションの場として「安全協議」の重要性は高まっています。

当会は「安全協議」の場として、専門家を含めた実効ある「安全協議会」の開催を要求するものですが、現在存在する「3者連絡会議」においても市民の傍聴が可能となり民主的な運営がなされるよう要求するものです。

ECONET INFORMATION

湘南なぎさ市

「復興の狼煙」被災地復興支援ポスター展

チャリティーライブ・飲食ブースあり

1月14日(土) 22日(日) 10:30-14:00

県立湘南海岸公園中部駐車場

主催/かながわecolife応援団 ☎080-5957-0677



脱原発世界会議 2012 YOKOHAMA

核のない世界へ...「脱原発映画祭」「福島部屋」など多彩な企画 <http://mpfree.jp/> をご覧下さい

ゲスト講演はドイツ・フランスなどの国から、日本の科学者も多数出演 トーク・加藤登紀子も出演

1月14日(土) 12:30 開場 15日(日)

場所 パシフィコ横浜

チケットはローソンで販売(2日間共通 3900円)

☎ 03-3363-7561

連絡先 「脱原発世界会議」事務局

川がつなぐ、海と森はともだち

基調講演「川の生き物の生活」斉藤和久氏

パネルディスカッション

2月12日(日) 13:30-16:15 無料

聖ステパノ学園海の見えるホール(JR大磯駅徒歩5分)

主催 神奈川県・相模湾海辺の学習ネットワーク

申込み 2/6までに fax 045-210-8837 ☎045-210-3260

藤沢エコネットから

◎脱原発署名にご協力ください



振込方法が変わりました

ゆうちょ銀行(9900)店番(029)

当座預金 0046501 7974エコネット

(従来の振込方法も利用できます)

*会費・購読料の未納の方は納入にご協力下さい

会員募集=年会費・購読料→3000円

次回 事務局会議 1月12日(木) 18:00~

市民活動推進センター

《編集後記》2012年が明けました。「昇龍 地を這うものには昇る楽しみがある(重)」届いた賀状の言葉です。昨年の東日本大震災はあまりにも悲惨な経験でした。津波被害に続き、福島原発事故による放射能汚染はますます広がるばかりです。低線量被曝の恐ろしさも知られてきました。今年は市長選の年、安心で豊かな文化・生活を約束する首長を選び、昇る市政に転じたいものです。今年もよろしくお願い致します。(A)